沢尻東原遺跡現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

１．はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、北沢東工場適地の開発（辰野町事業）に伴い、平成31年4月から、沢尻東原遺跡の発掘調査を行っています。これまでの調査では、縄文時代中期（約4,800～5,200年前）の竪穴建物跡48軒を主とした遺構がみつかり、併せて、土器や石器も大量に出土しました。

２．調査の概要

所在地　：長野県上伊那郡辰野町大字伊那富6750ほか
立　地　：天竜川右岸の河岸段丘上
調査面積　：18,000㎡
調査期間　：平成31年4月8日～11月29日(予定)
調査で発見したもの：
遺構　竪穴建物跡49軒（縄文時代中期48軒、古墳時代前期1軒）
埋設土器20基（縄文時代中期）
土坑40基（縄文時代中期）
遺物　土器：縄文時代中期の土器　（深鉢など）、古墳時代前期の土器（甕など）
石器：打製石斧・磨製石斧・石鏃〔矢じり〕・石匙・石錐・凹石・たたき石など

SB1 完掘（縄文時代竪穴建物跡）

SK42 土器出土状況（縄文時代土坑）

辰野町内には、250ほどの遺跡があります。その約８割が縄文時代の遺跡で、うち半分以上が中期の遺跡のようです。それらの多くは水が得やすい河川近くの高台（段丘や扇状地）上に立地しています。沢尻東原遺跡もその一例となります（参考文献）。

また、沢尻東原遺跡からみて、天竜川対岸には樋口内城遺跡など、縄文時代の集落跡が調査されています。

沢尻東原遺跡の位置（1:50000 辰野　国土地理院）

３．説明会の見どころ

今回、縄文時代中期の竪穴建物跡を主に現地公開します。土器の出土している状況や炉跡などを見学され、当時の暮らしの一端を実感していただければと思います。また、本日は発掘作業も行っていますので、調査の過程なども見学いただければ幸いです。

大量の土器が出土した13号竪穴建物跡（今から約5,000年前頃）（裏面参照）

調査中の竪穴建物跡のなかでも、埋土から多数の土器が出土した例です。土器の出土状況と竪穴建物跡の土が埋まっていく状況を観察しところ、竪穴建物跡が利用された後に土器が置かれた（捨てられた）と考えています。

出土した土器は、この地域にみられる「井戸尻式」と呼ばれる土器のほかに、県内の東信地域から群馬県にかけて分布する「焼町式」の土器もあります。詳細な分析はこれからですが、当時の交流の一端を示すものと考えています。

いろいろな炉跡（今から約4,800～5,200年前頃）（裏面参照）

今回調査した、竪穴建物跡の床には火を利用した炉がみつかっています。代表例として次の例があります。

7号竪穴建物跡　長さ約20㎝四方の小さい石囲炉
46号竪穴建物跡　石囲の中に土器を埋設した石囲埋甕炉
2号竪穴建物跡　石囲の中に石を敷き詰めた石敷石囲炉

発見された竪穴建物跡は縄文時代中期ですが、さらに出土した土器の観察から時期を細分できると考えています。炉のありようも時期的な変遷があると想定しています。

写真1　13 号竪穴建物跡　遺物出土状況

捨てられたと思われる土器が完形に近い状態で多数出土しました。

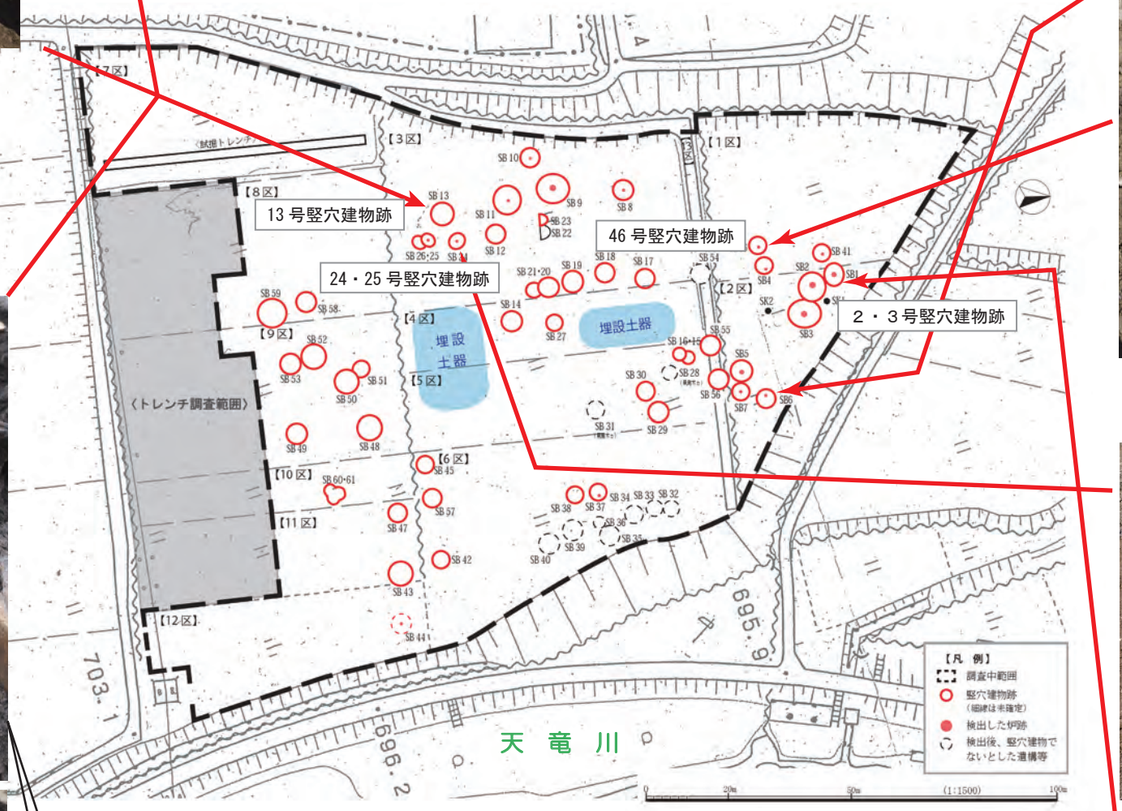
写真2　13 号竪穴建物跡　焼町（式）土器

「焼町式」は、東信から群馬県にかけて分布する土器です。

写真4　7号竪穴建物跡　石囲炉

写真5　46 号竪穴建物跡　石囲埋甕炉

〔展 示 遺 物 の 出 土 状 況〕



竪穴建物跡等　分布略図

写真3　13 号竪穴建物跡　井戸尻式土器

「井戸尻式」はこの地域の土器です。全体的に大きく作られているのも特徴です。

横たわるもの、倒立しているものなど、さまざまな状態で廃棄された様子を残しています。

写真6　24 号竪穴建物跡　石囲埋甕炉

炉跡は年代が新しくなるにつれて次第に石の数が増え大きくなるようです。

写真7　2号竪穴建物跡　石敷石囲炉

長野県埋蔵文化財センター

〒388－8007
長野県長野市篠ノ井布施高田963－4
Tel:026-293-5926　Fax:026-293-8157
E-mail:info@naganomaibun.or.jp